



ノーサイド。歴史的な勝利の宛定に歓喜の掛け声をあげる日本代表フィフティーン。日本ラグビー90年目、対18加盟国テストマッチ28戦目の悲願達成だ

## 君よ、きらめくジャパンを見たか!?

「世界8強」スコットランドに激勝!  
日本ラグビー90年目の悲願達成



テストマッチ初陣での快挙達成。ミラクル・リーダー宿沢新監督をフィフティーンが祝福の胸上げ

試合開始7分、スコットランドの精密キッカーラグスゴールが右中間19メートルのイージーなペナルティゴールをまさかの失敗。その後、逆に日本代表の山本は左隅23メートルの難しいペナルティゴールを鮮やかに沈め、「挑戦者チーム」には貴重この上ない先制点をもたらした。

思えば、勝利の女神はすでにこの時点から日本代表に微笑みかけていた、ような気がする。実際、日本代表はこれ以降ついに一度たりとスコットランドに追いつき追い越されることなく、午後3時26分、歴史的な勝利を告げるノーサイドの笛の音を聞いたのだから…。

勝因の分析は別項に譲ろう。私は、「勝つた」という結果以上に「勝つんだ!」という気迫と集中力を最後まで維持し続けた日本代表フィフティ

ーンの姿に胸打たれた。全員が決めた入魂のタックル、アグレッシブに意志統一されたシャープなアタック——つい半年前、アジア大会で宿敵韓国に2連敗を喫し、屈辱に打ちひしがれていたのがまるでウソのようにな、桜のジャージーにプライドが透けて見えた。

テストマッチ初陣でのミラクル大金星。宿沢マジックは、W杯予選突破へ向けてのワンステップであったこの試合を、イッキに世界8強の一角を突き崩すジャンピング・ボードと化してしまった。

「ね、言つた通りに勝つたでしょ。あれだけ『勝つ』って言い続けてたのに、誰も本気にしないんだから。失礼しちゃうよ」——3日後、所用でかけた電話口の向こうで、宿沢監督はいたずらっぽく笑つた。(浜部)



## W杯予選へのステップが ジャンピング・ボードになった!!

前半35分、スコットランドWTBツカロのカウンターアタックを渾身のタックルで阻止する日本代表CBT平尾主将。このディフェンスが街木のトライにつながった



後半33分、日本陣内を軒々とするボールをスコットランドWTBツカロとともに追走した日本代表FB山本は、一瞬早く追いつき、スパイクを飛ばしながらタッチに蹴り出した

▶平成元年5月28日(日)		R : L・ヒアード
日本代表	スコットランド	24
28	20 - 6	
8	18	
3	T	0
2	G	1
1	P	2
0	G	3
2	D	0
0	G	1
0		8
21 手数		
太田(日本電気)24	A・ブリュースター35	
藤田(明大OB)28	J・ヘイ24	
田倉(三菱重工京都)22	G・ウィルソン22	
林(神戸製鋼)25	C・グレイン28	
大八木(神戸製鋼)25	D・クローネン26	
橋原(東芝府中)22	D・ターンブル27	
中島(日本電気)23	G・マーシャル28	
ラトゥー(大東大4年)23	I・ハクストン31	
堀越(早大3年)20	G・オリバー24	
青木(大東大4年)21	D・ワイリー25	
吉田(明大3年)20	I・ツカ28	
平尾(神戸製鋼)26	S・リニー27	
朽木(トヨタ自動車)26	R・マクリーン27	
フォムリ(三洋電機)32	M・ダンカン29	
山本(サンクトリー)24	F・B・グラスコ23	



前半33分、日本代表はP R 太田—H O 藤田が鮮やかなサインプレーを決めて敵陣ゴール前のラインアウトを制し、最後はL O 林がL O 大八木のフォローを得てインゴールに飛び込んだ



何が若き精密キッカーを狂わせた!? 来日4戦で実に8割強のゴール成功率を誇っていたF B グラスゴーだが、この日は前半27分までに5本のP G をことごとく失敗し、ついにはS H オリバーと交代



前半17分、平尾からの飛ばしバスを受けた日本代表W T B 吉田は、自らちょこんとバントを上げて敵ゴールに突進。S H オリバーのタックルを凌ぎ切って殊勲の初トライを決めた



## 歴史に名を刻んだ 栄光のファイフティーン **FORWARDS**

### 1 太田 治 PR

● 178cm 90kg ● 28歳 ● 大阪工大高→明大  
↓日本電気 ● キャップ 3  
'86年のスコットランド戦(エジンバラ)以降  
ジャパンを外れていた太田が、このスコット  
ランド戦で復帰したのもなにかの因縁だろう  
か? 期待されたスクランブルはもちろん、ライ  
ンアウトでも大活躍。前半33分には林のトラ  
イを生む絶妙のタップを見せた。

### 2 藤田 剛 HO

● 178cm 92kg ● 22歳 ● 東京大高→明大  
↓日新製錬(今年3月「退社」) ● キャップ 25

藤田の復帰がもたらしたものは、限りなく大きさい。正確なスローイングを始め、彼はスコットランドのブレッシャーの中で好球をジャパンにもたらし、バイスキャプテンの重責をも果たした。「良かったよ、復帰して」——試合の後で、彼は穏やかに笑った。

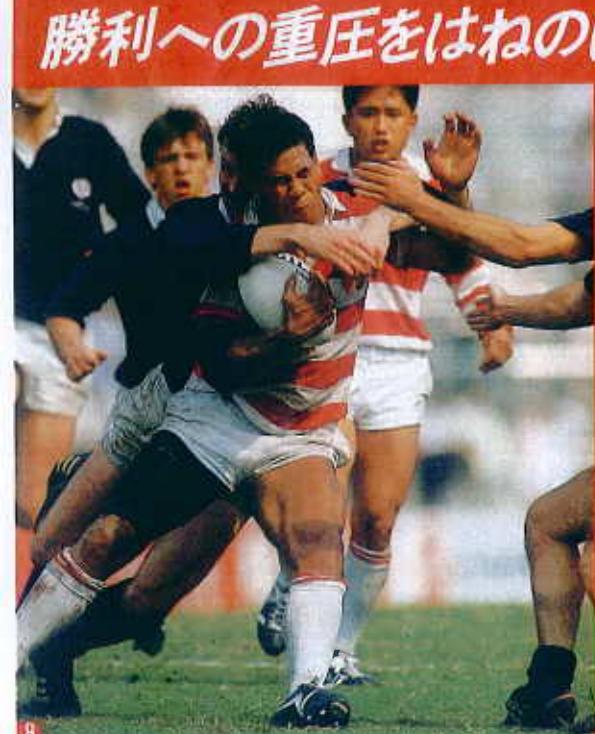
### 3 田倉政憲 PR

● 178cm 92kg ● 22歳 ● 東京大高→明大  
↓三井重工京都 ● キャップ 1

田倉のスクランブルの強さには定評がある。そして、評判通りの強さとの試合でも發揮した。同時に、彼が随所で好タックルを見せていたことも忘れてはならない。派手ではないが信頼ができる——そんなPRがジャパンに誕生した。

### 4 林 敏之 LO

● 184cm 100kg ● 24歳 ● 秋田工→明大  
↓神戸製鋼 ● キャップ 29  
● 29歳 ● 徳島城北 → 同



勝利への重圧をはねのけた8人の男たち

5

## 6 梶原宏之 FL

●189cm 101kg ●27歳 ●伏見工大・同大  
→神戸製鋼 ●キャップ20  
昨年のアジア大会を境に大八木のプレーが変わった。それまでの強引な「ブチかまし」が影を潜め、ボールをつなぐプレーを心がけるようになった。後半28分、ラトワ一からボールを受けた大八木は、それを中島につなぎ、ノフォーミーのトライを生み出した。

## 5 大八木淳史 LO

●187cm 90kg ●22歳 ●日川・筑波大→東芝  
府中 ●キャップ1 タックルが冴えわたっていた。スコットランドの執拗なサイドアタックを、ことごとく身を挺して防ぎ、何度もゴールラインを背にしながら、一度しかそれを割らせなかつた。タックルで初キャップを手にした男は、タックルで歴史的初勝利を呼び込んだ。

●184cm 91kg ●トンガ→東大→日本電気  
キャップ7 後半25分にさしかかるとするあたり、スコットランドのN.O.バクストンが、日本ゴーラ前スクランムからいきなりサイドをついた。それを一発のヘッドオントックルで倒したのが中島だ。『線の動きができる数少ないFL』は、この局面でもその名をあげた。

●180cm 85kg ●大津→明大→日本電気  
キャップ1 ラトワの動きは抜群だった。後半16分にWTBダンカンをコーナーフラグで吹飛ばしたタックルはもちろん、幅広い動きでボールのある地点には必ず顔を出した。98%あつた体重をもとして動きに鋭さを増したラトワ。揚色の弾丸の次なる照準はW杯だ。

## 7 中島修一 FL

●184cm 91kg ●トング→東大→4年 ●キャップ7 後半25分にさしかかるとするあたり、スコットランドのN.O.バクストンが、日本ゴーラ前スクランムからいきなりサイドをついた。それを一発のヘッドオントックルで倒したのが中島だ。『線の動きができる数少ないFL』は、この局面でもその名をあげた。

## 8 シナリ・ラトワ NO8



10

9



11

## 9 堀越正巳 SH

● 160cm 66kg ● 20歳 ● 熊谷工・早大3年  
● キャップ1

身の丈2倍はあるうかという大男に黒板に挑んでいた小兵・堀越。強気のプレーはスコットランドに対して一步も後へ引かなかつた。宿沢2世は、みこと宿沢一世の船出に白星をプレゼントした。

## 10 青木 忍 SO

● 171cm 75kg ● 21歳 ● 大東大 → 大東大  
4年 ● キャップ1

高校・大学と、青木の行くところには常に勝利の女神が微笑んでいる。今回もそれは例外ではなかった。生まれながらにして星を持ったプレイヤーだが、もちろん運だけではない。SOとしてバックアップの早さはピカ一

歴史に名を刻んだ  
栄光のファイティーン

B A C K S

## 11 吉田義人 WTB

● 168cm 68kg ● 20歳 ● 秋田工・明大3年  
● キャップ3



前半18分、自分でパントをあげて奪ったトライは、吉田の十八番。日本代表の挙げた5トライのうち3トライにからむ活躍もさることながら、相手に正面から突つこんでいて一発で倒したタックルも見逃せない。吉田は大一番での強さをまさまで見せつけた。

## 12 平尾誠一 CB

●180cm 82kg ●26歳 ●伏見工→同大→神戸製鋼 ●キヤップ21

今回、なるべくして主将となつた平尾。その卓越した理論は年齢を越え、選手を感服させる。後半2つのトライは、いずれも平尾の好判断から生まれたものだ。プレイヤーとしての資質は言い尽くされた感があるが、今後はリーダーとして、日本ラグビーの先頭に立つ。

## 13 杣木英次 CB

●173cm 72kg ●26歳 ●若狭農林→日体大→トヨタ自動車 ●キヤップ12  
平尾と同じ年ながら、高校時代はほぼ無名。平尾さんが「自慢」と語っていた青葉は、歳月を重ねるうちに、プレーに溌漫を増し、Bラインに欠かせぬ存在となつた。平尾とのコンビは、日本ラグビー史上でも上位に入る。ムリの好判断からだ。

## 14 ノフオミ・タウモエラウ WFB

●181cm 92kg ●32歳 ●トンガ→大東大→三洋電機 ●キヤップ14

フィフティーンの中でも最年長のノフオミ、BKでは平尾に次ぐベテランだ。TVでは盛んに(?)年齢を強調されていたが、後半19分のFB山本のトライを引き出したのはノフオムリの好判断からだ。

## 15 山本俊嗣 FB

●181cm 83kg ●21歳 ●糸島→福大→サントリー ●キヤップ2

終了間際、あわやトライ…というCTBリーンの突進を、身体をはつて止めたのは背番号15、山本だった。前半、続けて2本のPGを決め、日本代表のリズムを作ったのはもちろんだが、あの強烈なタックルが、日本の勝利を決定づけたといえる。

# RUGBY ANATOMY

ラグビー・解剖学

## タックルでつかんだ大金星

日本代表 28 [20-6] 24 スコットランド  
8-18



さて『ラグビー解剖学』——今回  
は、この歴史的なテストマッチを分  
析してみよう。

「タックルに尽きる」——日本代表

の平尾主将はそう勝因を語っていた  
が、それは別掲の二つの図からも証  
明されている。これは両チームの陣  
地の取り合いを示したもの。ご覧の  
通り、日本代表は7割がたを自陣で  
戦っている。平尾の言葉通り、苦し  
い状況をタックルで耐え抜いてあげ  
た勝利であることがよくわかる。ト  
ライを取ったのも、80分間に6回だ  
けあつた22回ライン突破を、すべて  
いかしたものだ(そのうち1回は前  
半10分のPG成功)。

そして、タックルはすべてが完璧  
だった。16ページの連続写真にある  
ように、日本の2線防御は執拗にス  
コットランドの攻撃を食い止め、後  
半2分に許した1トライのみに抑え  
込んだ。

もちろん、スコットランドのFB

グラスゴーが5回もPGを外すなど

日本側にもツキはあった。だが、そ  
のツキを勝利に結びつけられたのは、  
ひとえに日本の正確なプレーによる。  
攻撃にしろ、防御にしろ、どこかで  
一つミスが起きていれば、この金星  
はなかつたのかかもしれないのだ。そ  
の意味で日本代表ファイフティーンの  
集中力は称賛に値する。15人とも80  
分間をタックルし続け、ボールを追  
い続けた。誰一人として氣を抜いた  
プレーをしなかつた。

スコットランドはFWの周辺でゲ  
インラインを切り、機を見てBK  
に展開してなんとかトライを奪おう  
とした。だがそのたびに誰かが、身  
を挺してトライを防いだ。特に、後  
半16分にはトライの態勢に入ったダ  
ンカンをラトゥーがコーナーフラッ  
グへ吹っ飛ばし、終了直前の38分に  
はトライ寸前のリニーンを山本がタ  
ックルして防いでいる。強い相手を  
破るためにこうしたプレーが欠か  
せない。

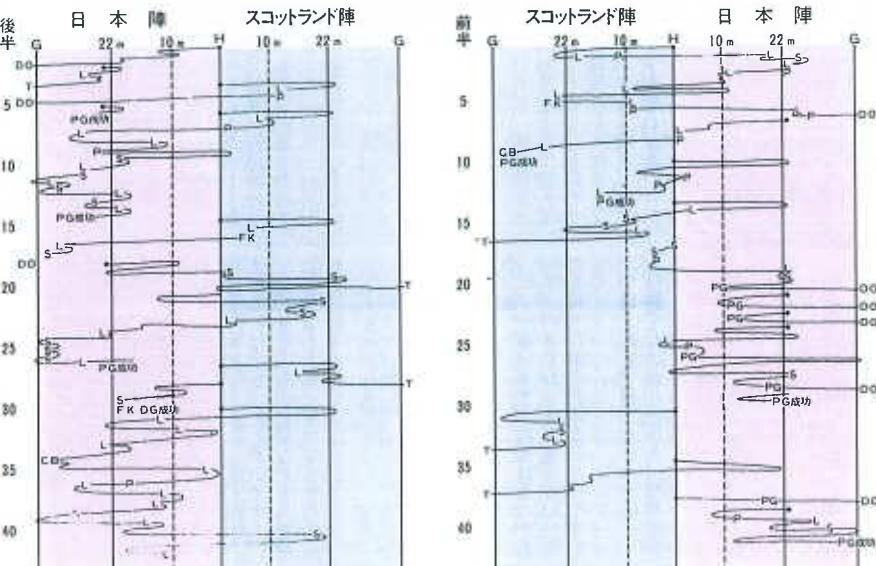
もう一つ、トライ数で5-1と上  
回りながら日本代表が苦戦した原因  
に、ラックでの倒れ込みがあげられ  
る。スコットランドの同行記者アラ  
ン・ロリマーはタイムズ紙に「日本  
は反則を犯してもスコットランドを  
優位に立たせぬようヤンブルを仕  
掛けってきた」と書いている。実際、日  
本の反則は21を数え、後半はそれを



後半なかばのゴール前スクラム。スコットランドNo.8パクストンのサイドアタックを前に出て止めるFL中島

PGに結びつけられた。スコットランドが出ちゃったが、足がだんだん伸び珍しくプレーが出来た。日本側が出ちゃったが、足がだんだん伸び珍しくプレーが出来た。

は、海外から見れば完全に  
反則であることを認識すべきだ。今回の金星に満足すべきだ。今回もW杯出場を目指す日本にとって、トライの後もCBパートとともに、これは克服すべき課題として残るだろう。



		日	ス	得点経過
前半	7分	X		F Bグラスゴー、右中間19m PG失敗
	10分	3		F B山本、左中間23m PG成功
	14分	3	(6)	F B山本、正面右23m PG成功
	16分	4	(10)	スコットランド陣10m付近のラインアウトから左へS O青木→C T B平尾→W T B吉田とわたり、吉田がショートパンツを自分で捨てて左中間にトライ。ゴール失敗
	22分	X		F Bグラスゴー、右中間38m PG失敗
	23分	X		F Bグラスゴー、右中間右寄り34m PG失敗
	24分	X		F Bグラスゴー、右中間右寄り32m PG失敗
	27分	X		F Bグラスゴー、正面48m PG失敗
	30分	X		S Hオリバー、正面左26m PG失敗
	31分	3		S Hオリバー、右中間26m PG成功
	33分	4	(14)	スコットランド陣ゴール前20mのラインアウトからH O藤田が突進し、L O林トライ。ゴール失敗
	36分	6	(20)	F B山本が相手22mライン付近ヘキック。スコットランドW T Bツカロがカウンターに出るところをC T B朽木、平尾でつぶし、ラックから左展開。W T B吉田が右ヘリターンパス。S O青木→F B山本→朽木→W T Bノフォムリ→朽木で右中間トライ。ゴール成功
	38分	X		S Hオリバー、左中間30m PG失敗
	40分	3	(6)	S Hオリバー、右中間15m PG成功
前半	20分	6		
後半	45秒	X		S Oワイリー、左中間27m DG失敗
	2分	6	(12)	日本ゴール前のラックを押し込んでH Oヘイトライ。ゴール成功
	5分	3	(15)	S Hオリバー、正面16m PG成功
	13分	3	(18)	S Hオリバー、正面15m PG成功
	19分	4	(24)	中央線付近でW T Bノフォムリがキックして自らタップ。それをC T B平尾→S O青木→C T B朽木→W T B吉田とつなぎ、最後はF B山本がトライ。ゴール失敗
	26分	3	(21)	S Hオリバー、正面18m PG成功
	28分	4	(25)	相手陣に入って15m付近のラインアウトからN O 8ラトゥーが抜けラックから右へC T B平尾→C T B朽木→W T Bノフォムリとつながいでトライ。ゴール失敗
	31分	3	(24)	日本陣22m線上のフリーキックからS Oワイリー、左中間27m DG成功
後半	8分	18		
	合計	28	24	

\*L=ラインアウト S=スクラム P=ペナルティキック PG=ペナルティゴール D O=ドロップアウト DG=ドロップゴール F K=フリーキック T=トライ C B=キャリバック



## 15人が一丸となつた防護網

この連続写真は、後半11分過ぎの  
スコットランドの攻撃。日本はその  
前のプレーで、ゴール前10秒のスク  
ラムからS.H堀越がタッチへ蹴り出  
し、22バルインを少し越えたあたり  
まで地域を挽回している。

15ページのボールの動きを示した  
図からもわかるように、この辺の時  
間帯はスコットランドが終始攻勢で  
日本はゴールを背負つた苦しい戦い  
を強いられている。だが、日本の勢  
拗なタックルに、スコットランドも  
手を焼き、なかなかトライを奪えず  
にいる。この連続写真で日本側のデ  
イフエンスを見てみよう。

また、日本のBKラインはツメのマークにしつかりタックルを行つてゐる。写真①でFBグラスゴーがゲインランラインを越えたところでFB山本につかまり内へ返すまで、SODAリリーにはSOD青木(3)、CTBマ

クリーンにはC(TB朽木(一)、CTBリニーンにはCTB平尾(三)、WTBダンカンにはWTB吉田(六)と、ギヤップを作らずにディフェンスしている。写真(七)との間にボールはグラスゴーからFLマーシャルへ渡つたが、これも青木がバッキングアップして倒している。

まだ、下でわかるように、逆サイドまでフォローしてきたWTBツノロには、そのマークのWTBノフナムリガビタリとついている。

そして特筆すべきは、日本の2組  
防御だ。<sup>メ</sup>で内を抑えられたツカ  
より<sup>メ</sup>で外側のリニーンにパスをする。

久しぶりに見たチー全脚  
日本をなめすぎたスコットランド

久しぶりに日本代表がチノム意識をもつて戦つてしまして、大学の対抗戦のような選手たちが、今までの日本代表

A photograph showing several individuals in athletic attire, including a person in a red and white striped shirt, embracing each other in a group hug.

ルに NZ のような  
完成度がないんで  
すよ。押  
し切られ  
ることな  
かつたで  
すからね。  
もちら  
ン日本 F  
トゥーがツカロをガッчиり止める  
でタツクルし

手がその通り動いたということです。どちらもサボルは組織ディフェンスが一歩でタズタになるところを、誰もサボらなかつたことはないとおもつましたが、C T B のタテ突進を多用してくれてかえつて助かりましたね。2 観防術が間に合う位置ですから。日本は外の遠い位置に回された方が弱いんですけどね。

普通、外國チームは一戦一戦調子を上げていくんですが、スコットランドは逆でした。関東代表の時が一番調子よかつた(笑)。日本をなめすきてましたね。

勝ったことは素直に喜ぶべきでし

後半はキックを多用してくるだろうと思ってましたが、C T B のタテ突進を多用してくれてかえつて助かりましたね。2 観防術が間に合う位置ですから。日本は外の遠い位置に回された方が弱いんですけどね。

九州代表は、日本のためにいかに失点を少なくするかに重点を置いていました(0-45)。得点能力はないけれど、組織ディフェンスについては納得できました。個人技でどられたのが3本くらいありましたが、日本選手に「止められる」と思つてもらえたことは良かつたと思います。

観に来てた宿泊監督なども「參者になりました」と言つてましたからね。

防御重視志向が成功  
破壊力なかつたスコットランドF

**土屋豊史明**  
九九代表選出記  
やればできるという見本  
すよ。日本は弱い、弱い、  
言われたけれど、精神論か  
入つて防衛重点志向で戦え  
なんとかなることが立証さ  
ましたね。今の日本のB.Kは3  
イはできる能力がありますよ。  
スコットランドも疲れがあつた  
るし、破壊力あるFWじゃなか  
たことは戦いやすかつたですね。  
州もスクラム押されなかつたです  
ら。それと、スコットランドはラ  
グ志向なんですが、日本は上背が  
いいうことで、モールに変えて  
たんです。ところが普段あまりや  
ないものだから、ドライビングク  
ロー

テイブコスの勝利  
勇気が従来の技術を引きだした

です。バスとかステップとかいいもんのを持つた選手の集まりなんですか  
ら。

では「これまで勝てなかつたのになぜ勝つたのか」という精神面が大きく影響しているんですね。「やれるぞ」という意識ですね。アンダー23の試合は日本代表も想戦に来てましたから、25・36まで追いつきました。我々もやるんじやないかという重壓感がもつた。それが今までの技術をひき出したんだでしょう。これまで恐れをなしたり、勝てな



## 打身・ねんざ・筋肉痛・筋肉疲労・腰痛・肩こり のびのびサロンシップ<sup>粘着シート付</sup>



### 供試品プレゼント実施中!!

ご希望の方は、官製ハガキに住所・氏名・年令・職業を明記の上、〒151 東京都渋谷区代々木4-31-8 久光製薬株式会社東京支店「のびのびサロンシップRM係」宛てご請求ください。

**HISAMITSU**  
久光製薬株式会社



12

が、日本はノフォムリ、FJ中島N.O.8ラトウ、SH堀越と弧を描くようにディフェンスしている。

リーンは無理に勝負せず、内マクリーンにボールを返すが、それラトウが仰向けに倒すナイスタックル(1)。そのラックからワイリーがタテに突つ込むが、今度はLO大八木とP.R田倉がそれを潰す(2)。スコットランドは(3)でLOクローニンが再び突進するが、それも平尾、H.O.藤田、L.O.林、F.L.梶原でピタリと止めている。

結局、このあと日本はラインオフサイドをとられ、SHオリバーにPGを決められ20-18と追い上げられたが、ぶ厚いディフェンスで3次に及ぶスコットランドの連続攻撃を食い止めたのは評価できる。

まず、1次攻撃にはBKがそれぞれのマークをキッチリ果たし、2次攻撃にはHB団とFW第3列が、そして、そのあとの相手FWのサイド攻撃にはFWの前5人が必ずディフェンスをする。15人が一丸となつた防御網で勝ちとった金星といえるだろう。

後半3点差まで詰めよられた時にトライしましたよね。そこで勝てたと思いました。

今里良三  
関西代表記者

「ロッブやロックまでが  
アマゾンの要として動いていた  
プロップやロックまでが  
アマゾンの要として動いていた  
トライしましたよね。そこで勝てたと思いました。

今まで忘れていたタックル、意志統一された組織ディフェンスが勝因でしょう。

PRからOまでが最後のとりでとしてカバーディフェンスしてました。

これまで、詰め、マークというフォーメーションを形でやつっていただけでしたが、この試合は一人ずつタックル局面を自分で見つけて飛び込んでましたね。

スコットランドがチームとしての完成度が高くなかったこともあるで

しょうが、怖い相手ではなかつた。それが観戦して、相手のチークつかないかと思いついた。それが実力を出しよるやううと思つたんですが、関西も前半12-16と善戦して、思い通りのゲームができるので、ジャパンなら勝ち目があると思ってたんです。

吉田の先制トライも、ドリフトディフェンスを突破するための完璧なラインですよ。これは対策がしつかりしていたということですが、となるかとれないかは勇気なんですね。タックルも怖がらずに前で止めたディフェンスの勝利です。アンダー23で勝つてやろうと思ってたんですけどね。よくやりましたよ。凄いことです。

関西の時は後半、スコットランドがハイパートを中心にした堅いラグビーをしてきました。それでやられてしまつたわけですが、ジャパンはFB日本を中心とするバックスリーで勝つてやろうと思ってたんですね。よくやりましたよ。凄いことです。

関西の時は後半、スコットランドがハイパートを中心にした堅いラグビーをしてきました。それでやられてしまつたわけですが、ジャパンはFB日本を中心とするバックスリーで勝つてやろうと思ってたんですね。よくやりましたよ。凄いことです。

関西の時は後半、スコットランドがハイパートを中心にした堅いラグビーをしてきました。それでやられてしまつたわけですが、ジャパンはFB日本を中心とするバックスリーで勝つてやろうと思ってたんですね。よくやりましたよ。凄いことです。



藤田、林、平尾が懸命のタックル